

CONTENTS (目次)

- 02 特集
熊本地震から10年。
村の絆と歩みを未来へ
～追悼行事と復興イベントでつなぐ記憶～
- 06 みなみあそダイアリー
- 09 大切なお知らせ
金婚・ダイヤモンド婚をお祝いします／熱中症特別警戒情報について／RSウイルス母子免疫ワクチンが定期接種(無料)になります／児童手当現況届の提出について／新規採用職員紹介／税の滞納について／各種健診(検診)の実施について
- 16 みなみあそ情報ひろば
- 19 図書室だより
学校通信
- 20 みなみあそ観光局便り
村と人
一品どうぞ
- 21 ハートがたくさん村づくり
なんでも南部分署
ポリスインフォメーション
- 22 教えて!村長さん
- 23 3歳になったよ!
出生・おくやみ・社協告知板
編集後記
- 24 南阿蘇カレンダー

南阿蘇村の人口・世帯数 (令和8年4月30日現在(前月比))

男 4,811 (+11)
女 5,027 (+15)
計 9,838 (+26)
世帯数 4,874 (+31)



今月の表紙



熊本地震災害犠牲者南阿蘇村追悼式の花祭壇。犠牲者を偲び、百合や蘭などの生花が施されました。

特集

熊本地震から10年。村の絆と歩みを未来へ

追悼行事と復興イベントでつなぐ記憶

平成28年に発生した熊本地震から、

この4月で10年を迎えました。

震災では多くの尊い命が失われ、村も大きな被害を受けました。一方

で、震災をきっかけに新たな出会いやつながりが生まれ、全国各地から多くの温かい支援が寄せられました。その支援に助けられ、村は一步步力強く歩みを進めていくことができました。

犠牲になられた人々たちへの追悼の

思いを胸に、私たちはこの記憶や経験、教訓を風化させないために、次の世代へと語り継いでいく必要があります。

そのために、村では4月16日に「熊本地震災害被害者南阿蘇村追悼式」を開催するとともに、復興までの歩みをふり返る特別展を実施しました。

今回は、震災から10年という節目

に村内で行われた追悼行事や復興イベントなどを振り返ると

ともに、震災からの教訓をふまえた取り組みなどを特集します。

KIOKUでの復興祈念LIVEにて、山々を背景に演奏される田尻さん



②



①



③



④

- ①10年の想いを胸に集まった参列者
- ②トランペットの音色を楽しむ観客
- ③役場で行われた展示スペース
- ④タテットでの展示スペース

01 熊本地震災害犠牲者 南阿蘇村追悼式

4月16日、役場にて「熊本地震災害犠牲者南阿蘇村追悼式」が開催されました。

式には遺族や村関係者など約90人が参列し、祭壇の前に黙祷が捧げられ、犠牲者の冥福を祈りました。(写真①)

02 熊本地震10年 復興祈念LIVE

4月2日、熊本地震震災ミュージアムKIOKUにて、「熊本地震10年復興祈念LIVE」(田尻大喜トランペットコンサート)が開催されました。田尻さんは世界で活躍するトランペッターで、ご自身も前震直後に熊本に入り、本震を経験された当事者でもあります。以来、熊本地震や東日本大震災の被災地への支援活動を精力的に続けてこられました。

当日、広場には穏やかなバラードから明日へのエールを送る曲まで、情感豊かな楽曲の美しい音色が響き渡りました。田尻さんは「震災後も10年後の現在も、トランペットの音で南阿蘇の皆さんを元気にすることができて嬉し」と笑顔で語りられました。(写真②)

03 南阿蘇村復興 ふりかえり展

4月13日から27日まで、役場1階ロビーで村の復興の歩みを振り返る特別展示が行われました。村民をはじめ役場を訪れた人が立ち寄り、パネルや当時の広報紙を眺め、当時の村内の被害状況や復興していく姿を振り返っていました。震災を経験していない人にも熊本地震を知ってもらう機会となりました。(写真③)

04 新聞展示企画 「あの日のキオク」

4月10日から5月31日まで、阿蘇立野ダム展望施設タテット施設内の展示スペースにて、村の復興の歩みを新聞記事で振り返る特別展示が開催されました。南阿蘇鉄道や立野地区の住民のインタビューなど、村の復興に関連した新聞記事を12枚のパネルに収め、この10年の歩みを振り返りました。企画はタテットのオープンと同時に始まり、タテットに訪れた人々が施設を楽しみながらゆっくりと展示を眺めていました。(写真④)



▲展示を見て回る来場者

05 地震ニ学ブ (復興までの軌跡パネル展示)

4月29日に、旧立野小学校にて地震の経験を未来へ伝える復興までの軌跡パネル展示が開催されました。この企画は立野地域の自然や地震の記憶を手掛かりとして、くらしや防災について考えることを目的に、阿蘇火山博物館、熊本大学のくまもとサイエンスカフェ、九州電力水力開発総合事務所、国土交通省九州地方整備局阿蘇砂防事務所と共同で行われました。

当日、会場に訪れた人は展示を巡り、それぞれの団体の視点から学びや気づきを得ていました。

06 熊本地震10年 『熊本地震を未来へどう語り継ぐか』シンポジウム

4月14日、熊本地震震災ミュージアムKIOKUで、震災の記憶と教訓を次世代へつなぐための特別シンポジウムが開催されました。「今後の備えを考える」をテーマにした講演と、「熊本地震をどう語り継ぐか」をテーマに阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災の被災地で伝承者として活動してこられた3人をゲストに迎えパネルディスカッションが行われました。

会場には約60人の参加者が集まり、震災の記憶をどのように未来へ繋ぎ、語り継いでいくかをともに考える、貴重な場になりました。



▲有識者の話に耳を傾ける参加者

07 南阿蘇村復興祭



▲交流を行った参加者

4月19日、東下田公民館にて、村で活動を続けてきたボランティアグループ「NGO 魅来一笑顔届け隊」の主催で南阿蘇村復興祭が行われました。

東日本大震災や能登半島地震など、各地の被災地で活動を共にしたグループのメンバーと被災した人たちから、「震災から10年を迎えた南阿蘇にもエールを送りたい」とさまざまな食材が届けられ、三陸と能登の海産物や郷土料理が振る舞われました。会場には地元集落を中心に約50人が集まり、県外からのボランティアと地元の皆さんが協力して復興祭を運営しました。復興祭を通じて、3つの被災地をつなぐ交流が実現しました。

08 ブルーインパルス 展示飛行 ～熊本地震10年関連事業～

4月11日、犠牲者への追悼と復興への願いを込めた展示飛行として、航空自衛隊のブルーインパルスが村の上空を通過しました。

「熊本地震10年 復興そして未来へ」をテーマに6機が力強く空を飛び、震災ミュージアムKIOKUやあそ望の郷くぎのでは多くの人が空を見上げてブルーインパルスに見入っていました。



▲あそ望の郷くぎのから見えたブルーインパルス



▲ガイドの案内で黒川を巡る参加者

09 黒川ウォーク

4月25日と26日の2日間、旧長陽西部小学校・体育館を拠点に、当時の記憶をたどる「特別企画展」と、復興の歩みを感じながら集落を巡る「黒川ウォーク」が開催されました。

企画展では東海大学の学生村からのメッセージなどの掲示や、株式会社無印良品の「いつものもしも」展など、防災と記憶をテーマにした展

示が行われました。

26日に開催された黒川ウォークでは、参加者が旧阿蘇大橋や集落内を巡り、会場にてのっぺ汁や高菜ごはんの提供、音楽ライブの鑑賞などを楽しみました。その他にも、東海大学に関わる団体による活動紹介やセラピードッグとのふれあいなどで交流を深めました。

10 歌桜会

毎日夕方6時に村内の防災行政無線で流れる村民の歌「大地の讃歌」。この歌を歌いたい、多くの人に届けたいという思いで集結し、誕生したのが「みなみあそ歌桜会」です。

地震で被災したメンバーもいらっしやいますが、地震後は歌を通して村を元気にしようという精神的に活動を続けてきました。その想いが繋がり、4月には、全国放送で歌唱やインタビューを受けられる映像が放映されました。現在も毎週金曜日の午前10時から2時間、久石にある如水館阿蘇分館で練習に励まれており、これからもイベントなどで歌を歌い続けていけます。



▲「大地の讃歌」を大切に歌う歌桜会のメンバー

教訓 災害に備える「自助・共助・公助」について

地震を含め、自然災害はいつどこで起こるかわかりません。しかし、日頃からの備えと地域での協力があれば、被害が起きても的確に対処できます。災害時には「自助」「共助」「公助」の3つの視点が大切です。

■自助……………
災害が起きたときに、自分自身や家族を守る行動です。日頃からの備えが命を守る第一歩になります。

(例)

- ・家の耐震・防災点検
- ・非常持出袋の準備(飲料水、食料、懐中電灯、救急用品など)
- ・避難経路や避難場所の確認 など

村内でも、災害時の行動を見直すため、防災訓練を実施している地域があります。今後も定期的の実施していく予定です。

■共助……………

地域や身近なコミュニティの中で、住民同士が協力して助け合うことです。日頃から周囲の人とコミュニケーションをとって関係を築くことも大切です。

(例)

- ・民生委員による高齢者や障がい者への声かけ
- ・避難所での運営協力 など

村では、住民の顔が見える関係性をより深め、共助に対する意識高揚を目的として、各行政区で実施される「自主防災組織の訓練を支援しています」。

■公助……………

行政や消防、警察などの公的機関が行う支援のことです。

(例)

- ・避難所の開設や物資支援
- ・救助活動(消防・警察・自衛隊)
- ・インフラの復旧 など

村は災害時に備え、一例として次のような協定を結んでいます。

・B&G財団と防災協定を締結。役場駐車場内に防災倉庫を整備し、機材が配備され、防災拠点となっています。

・県キッチンカー協会と「災害時における物資及びサービス等供給に関する協定」を締結。災害時にキッチンカーが避難所へ出向き、温かい食事を優先的に提供し、避難生活の環境向上を図ります。

私たちにできること

日頃から一人一人が災害に備え、「いのちと暮らしを守る」行動を心掛けましょう。災害が発生した際、状況は目まぐるしく変わります。正確な情報を確認して、周囲の人と協力しながら、その時・その場所に応じて安全に動くことが重要です。

震災によって、私たちの生活や周囲の環境が大きく変わりました。その中で、日々何気なく過ごせることの大切さを改めて実感しました。そして、災害が二度と起こらないことを願いながらも、万に「備え」「自助・共助・公助」の役割を理解し、日頃から準備しておくことの重要性を知ることができました。

熊本地震の教訓を、私たち自身のさまざまな想いとともに未来へと受け継いでいきましょう。